



～学校創りのお願い～入学式式辞より

入学式の式辞の内容を抜粋して紹介します。校長より新入生へ2つ、保護者の皆様へは学校を創る当事者として学校の教職員と共に一緒に行動してほしいとお願いしました。これは在校生とその保護者に皆様も同様にお願いしたいと考えております。生徒の自主・自立を目指した学校にするために是非ともご理解・ご協力をお願いします。

～抜粋～

今年度の福栄中学校の学校経営方針のスローガンは「地域に開かれた生徒主体の学校づくり」です。そして学校教育目標の生徒の自主自立を目指します。新入生の皆さんに2つお願いがあります。

1つ目

「失敗を自らの力で克服してほしい」

皆さんが失敗しないための安易な「転ばぬ先の杖」は必要ありません。次に失敗を繰り返さないために、苦しい思いをして克服することが成長だからです。

失敗は成長のチャンスと捉えましょう。その上で、失敗をして周りに迷惑をかけてしまったら、素直に謝ることを決して忘れないこと。そして失敗は誰でもするものなので、仲間が失敗したら助けてあげてください。それが当たり前になれば、失敗を恐れず、新たなことにたくさん挑戦できる集団になっていきます。

2つ目

「人との関わりを大切にする」

人間の悩みの8割は人間関係と言われています。これから先の人生において人との関わりは一生続いていきます。人と関わる上で理解しておいてほしいことを3つ伝えます。

- ① 人と考えが違うのは当たり前、そこで悩む必要はなく、考えが違う人を仲間外れにするのはもつてのほか
- ② 違う考えがあるから、間違っただけに行きづらい
- ③ 違う考えによって新たに自分の考えを広げることが出来る

この3つを理解したうえで、皆さんの強みを生かしてください。

本日、282名の同級生が出来ました。たくさんの人と関わる事が出来る環境となりました。

人との関わりこそが自分を成長させてくれます。

それが、明日からの学校生活を楽しいものにしてくれるはずですよ。よろしくお願いします。

最後になりましたが、保護者の皆様に申し上げます。

中学校の3年間は、心身ともに大きく成長する多感な時期です。子どもたちの成長しようとする潜在能力を引き出すような関わりを大切にしていきたいと考えております。この考えの共通理解の下、子どもたちを信じると共に、学校には毎日多様なことで困っている生徒がたくさんいます。すべての子どものサポーターになってください。保護者の方にも学校を創る当事者として保護者の皆様と学校がチームとなって子どもたちに関わって大人の行動を見せていきましょう。

熱中症予防行動の習慣化に向けて①

これから気温が上昇する季節となります。その中でひかり祭（体育祭）や修学旅行があります。生徒の皆さんがこれらの行事や学校生活を安全安心に過ごすには、まず自分の体の仕組みを知ること。その上で熱中症について正しい知識を持ち、予防行動がとれることが必要になります。これから厚生委員や体育委員の皆さんにも協力してもらい、啓発活動を行いながら全校生徒が熱中症予防行動の習慣化されるよう取り組んでいきます。

今後、学校だよりでも関連の内容を紹介していきます。

【発汗について】「神戸大学 近藤慶彦先生の記事引用」

ヒトが森の中で過ごしていた時代から、草原に出て獲物を追いかける進化の過程で、体毛を退化させ、発汗を獲得しました。汗をかくことで日中の暑い時間帯に動物を追いかけても過度の体温上昇が起こらなくなったと考えられています。

発汗の仕組みとして外の気温が上昇している時や運動した時、体温が上昇した時、脳の視床下部が体温上昇の情報をキャッチし、汗腺に「汗を出して」と命令を出して発汗を促します。

汗腺は使えば使うほど、その能力が開花するといわれています。一方使わないとその能力を発揮する事ができません。日常的に運動で汗をかくことで季節の変化する時期や夏においても、生活の質を落とさず、快適に生活を送ることができます。ここを各自で習慣化してください。

汗は皮膚に付着して時間が経つとアルカリ性に傾き、皮膚で細菌の繁殖しやすくさせます。発汗も大切ですが、かいた後のケアも大切になってきます。進化の過程で必要であった匂いが出る汗は現代社会では種族判定が不要となり、その役割が殆どなくなったと考えられています。

【熱中症について】

1 熱中症について 千葉県教育委員会：学校における熱中症対策ガイドラインより抜粋

体温を平熱に保つために汗をかき、体内の水分や塩分（ナトリウムなど）の減少や血液の流れが滞るなどして、体温が上昇して重要な臓器が高温にさらされたりすることにより発症する障害の総称です。高温環境下に長期間いたとき、あるいはいた後の体調不良はすべて熱中症の可能性がります。

- ・死に至る可能性のある病態です。
- ・予防法を知って、それを実践することで、完全に防ぐことができます。
- ・応急処置を知っていれば、重症化を回避し後遺症を軽減できます。

（1）暑さ指数について

熱中症に関連する気温、湿度、日射、輻射、風の要素を積極的に取り入れた指標

（2）暑さに応じた注意事項について

暑さ指数	留意事項
31℃以上	運動原則中止 特別な場合以外中止 ※特別な場合；医師、看護師、一次救命処置保持者いずれかが常駐、救護者の設置（エアコン部屋）、救急搬送体制が整っていること
28～31℃	嚴重警戒 激しい運動、持久走は避ける。積極的に休息をとり（10～20分おき）、水分塩分補給、体力のない者、暑さに慣れていない者運動中止
25～28℃	警戒 積極的に休息、水分塩分補給、激しい運動では30分おきぐらいに休息

※本校では体育館、校庭に暑さ指数計を設置して暑さ指数を計測しています。